



14-01中央 委員会報告

JLUニュース

No 836 (14-05)
航空連 日本航空ユニオン
中央執行委員会
2022年 10月 18日

Tel: 03-5756-8690 URL <http://www.jlu.co.jp> e-mail honbu@jlu.co.jp

コロナ禍の年収減を補う一時金を勝ち取ろう

10月12日、第14期1回目の中央委員会をオンライン併用で開催し、2022年末闘争方針と要求を決定、選挙管理委員の半数改選、査問委員の選出、会計細則の見直しを行いました。羽田支部吉田中央委員が議長に選出され、スムーズな進行をしていただきました。以下、報告です。

開会あいさつ 佐藤委員長

19日から団体交渉が始まる、全日空の2.0ヵ月が足かせにならないよう、JLUとして2.5ヵ月+10万円の要求に拘っていきたい。要求を団交で訴える為に要求根拠となる意見を言ってもらえれば、団交で伝えていきたい。この場でなくても、近くにいる組合役員や本部にメール等で連絡していただいてもいい。生涯年収が400~500万円下がっている。2019年からコロナによる影響が出てきたが、この2年間、会社は社員に手立てをしていなかったと感じる。今日は活発な意見交換をお願いします。

一般経過報告 文書ファイルで確認

9月8日定期大会以降、JLUとして取り組んだ各種取り組み、活動状況を配布。特に質疑なし。

選挙管理委員の半数改選

選挙管理規定第5条(選挙管理委員の任期:1年として半年毎に半数改選)に基づき、現行3名の選挙管理委員の2名を改選し、第4条に基づき中央委員会で任命した。

1	川上敬之(選管委員長)	JALEC HAA/C	新任
2	渡邊 誠	JALEC HLT/A	新任
3	斉藤 浩万	JALEC HMQ/I	継続
	竹内 厚雄(選管委員長)	JALEC HLI/E	退任
	竹下 薫	JALECHAH/R3	退任

査問委員の選出

査問委員会規程第2~4条に基づき、中央委員の互選により8人の査問委員を選出し査問委員会議長を決定した。

委員会議長: 斉藤啓一 委員: 岡崎貴充、秋山俊彦、春日洋充、吉田幸一、武藤慎一、五十嵐公一、紫桃良直

22年末闘争方針・要求案の提案 菊田書記長

年末方針案提起以降の情勢、日航労連統一要求の内容を説明し、Jグループ労連統一要求は書面で提案した。

【JLU ニュース 832,835 (14-01,04)号】

この方針案が認められれば争議権投票が始まる。中執のいない職場は中央委員がフォローして取りこぼしのないように。22年末方針案及び一部日程表で11/2としていた回収締切りを11/1(火)に変更した。早めの取り組みをお願いしたい。次回中央委員会(11/24)の前に一時金の収拾期限が来た時の判断を中央執行委員会に一任していただくことも確認しておく。

■ 質疑応答(口は発言中央委員の所属支部を示す)

北日本 要求案には賛成。個人的には額は少ないと思う、人は金で動くと言いつつ続けてきた。それなりの金を出さないと人は動かない。色々なものが値上がりしている今、コロナで年収が下がっている、取り返していきたい。暖房手当は、寒冷地で働く人へのペナルティーとして欲しい。諸手当やST、単身赴任手当について普通は春闘で要求するが、この会社はあまりにも不利益が多い、転職することで不利益となってしまう。JASは利益があったから早く資格を取って転職したいとなっていたが、JALECの若い人は転職したくないから資格を取らない。どうしたら、若い人が資格を取りたいと思うか、一番は金。転職した場合は、家賃は無料にするとか、利益となるものを考えて欲しい

西日本 要求の2.5+10万円は賛成。若い人ほど今までもらっていないから、「そんなにももらえるの?」という感覚でいる。この一時金を満額勝ち取ってほしい。高速代については補助金をアップして欲しい、あとは雇用延長者が減っていると感じる。若い人は給料、待遇が悪いと感じている。儲かっても出さない、STも乗れない、これでは、ただの奴隷のようだ。ブランドだけでは働けない、離職者が増える、人財を失う事になってしまう。伊丹ではERJの重整備を2機体制でやっていた。ハンガー内での鳩のフン害が多い。SHIPにもかかり、ハンガーアウトする際に、掃除が大変。

西日本 最近の物価高に合わせてベアも取っていききたい気持ちになっている。あとは単身赴任STを全て予約できるようにしてほしい。便が少ない空港だと一便乗れなかった時の時間の無駄が大きい。職場は人員不足、JALの人間が少ない、コロナで中国から整備士は来ていなかったが、そろそろ来る。JALECに出向ってきて、関空で教育する。今の国際情勢を考えると、JALは民間の会社だが、中国の会社と組むのはどうか、という意見がある。仕事が取られ、将来的に国が乗っ取られてしまうのではないかと危惧している。

西日本 名古屋は貨物機3社のスケジュールチェンジが多く、勤務変更が発生していた。対策でナイトロングを月曜日~土曜日に2名アサインしている。これで勤務変更が少なくなるのではないと思う。マイカーの交通費支給について、個人宛に通勤経路が送られてきたが、経路が連絡橋の手前までとなっている。実際は橋を渡って1.3km位走る。総務に確認しているが、現時点で連絡がない。その1.3km足しても、以前より1km少なくなっている。JASの時は、直線距離×1.4か実走行距離のどちらか長い方だった。カスタマーは1人5、

6社やっている、各社毎の手当の拘りは強い。

中執 直線距離×1.4 か実走行距離のどちらか長い方という要求だったけどかなわなかった。今回の変更で会社としての支出は若干増えているというので、これまでより良くなった人の方が多いということ。マイカー通勤の高速代については、時間帯を限定した要求に変えて交渉していく。

九州 以前伊丹に赴任していた時は、帰省する飛行機が混んでいる時は新幹線で帰った、今は福岡、新幹線では帰れない。STの空席待ちプライオリティーを上げて欲しい。

羽田 コロナの減収の補填となると、2.5ヵ月でも最低ライン。インバウンドが増えたり、全国旅行支援も始まったりする。コロナの第8波が来なければ、展望はある。

高速補助は出してほしい。会社は基本的にマイカー通勤を推奨していないが、シフト勤務者には認めている。シフト勤務者全員が電車通勤にすると会社のコストが上がるだろう。在宅勤務時の助成金申請が JALI は引き続きできる、JALの連結は赤字だが、JALECは黒字なら、JALECは一時金をもっと出してはと思う。

羽田 2.5ヵ月は最低の係数、年間4.0ヵ月は欲しい。過去2年の減収をどうしてくれるのかと会社に聞きたい、職場状況では、ハブスポのバスに乗る人数が最近増え、補助席を使うくらい密になる。バスを大きくしてほしい。印西に帰宅する場合、浦安、習志野に寄っていくので、家に着くのが2時から2時40分くらいになる。直接タクシーの人と不公平感を感じている。

羽田 現場は A350 資格者が足りない。休みも調整している。AFRS の資格も個人に任命されているが、手当が少ない。若い人で、資格を早くとる人もいるが、やりがい搾取されている。資格手当の増額も必要。教える側の兼務教官は、多い時で1年の半分くらいが訓練所で、年収で30~40万円減る。訓練生からは、時間外に質問を受けたりするが、サービス残業で対応している。休日も出来るだけ対応しているが、これもやりがい搾取。他の資格手当も必要。非破壊検査、BSIも責任を持ってやっているけど手当が置き去りにされている。

羽田 物価上昇に収入が追いついていない。政府は経営に賃上げと言っている。「黒字なら年間4ヵ月」は約束事、守ってほしい。整備は今年度20~30名採用したらしいが、ANAに行けなかった人が JAL に入社したそうだ。今、本当に人員が足りない。成田で人員が浮いているなら、そこから出して欲しい。人が足りないとミスも誘発する。JLU の活動で夏の一時金は JALFIO 要求を上回った。マイカー通勤の燃料費支給基準の変更を評価するという意見もあった。

羽田 ライン2シフトはシニアが多い。毎日マイナス5、6名でやっているなか、この先定年で続々辞めるとなると、発着が回らない。MCTにより資格者を捻出するようだが、うまく回っていないと感じる。人員を増やすしかない。今後 e-LOG が767、777に導入されるが、個人任せの e-Learning の体制が変わっていない。737の e-LOG でも不具合があった。これに対して手当する体制を作らないから個人負担が大きい。法確認の人員も少なく、ミスをフォローアップできていない、人員は早急に何とかしないとイケない。

羽田 重整備は部品の流用が多く、自転車操業になっている。予備品が少なく、あまりにも流用が多く余計な仕事が発生している。地方へ緊急出張があったが、部品とスキルマンが取られた。STR のトレードがいなくなると計画通り進まない。復便により、工場で育てた人をラインに取られていく。ま

た育てないとイケない、計画性がなさすぎる。重整備はこの3~4年、組織改正を繰り返し、目の前の仕事をこなすだけになっている。

羽田 今年度の物価上昇を考えて、来年の4月には、基本給を上げていかないと魅力がない会社になる。人員問題では、どこの職場も苦勞されている、最近 ERJ の不具合が多い。カスタマーにも M/H を取られてしまう。計画通り整備ができるのか考えてほしい。当日出勤人員がマイナスになるのなら、それも考えて計画を組んで欲しい。きつい状況が繰り返されると、疲労も増えてミスも増える。JAL 解雇問題はどのような解決になったのか、確認したい。

中執 解雇問題については、国民共闘会議も終結ということで解散の方向。解決の決め手は業務委託契約の提案だった。また、各個人宛の社長メッセージはいい内容だったと聞いている。被解雇者の2/3は解決、残り1/3はまだ闘っているが、JLUの方針はJFU,CCUと共に終結となっている。

羽田 10月からの値上げを日々感じている、特にアルコール類が上がっている。シニアの問題について、意見をまとめてあげていきたい。68歳になる人も出て来ている。工具室はフルタイムしか選べない。90%、70%も選べるようにしてほしい。JALECは2年間黒字なのだから、JALECの組合員も黒字にした誇りを持って要求してほしい。JLUだけが引っ張っているのではなく JALEC 労組も頑張ってもらいたい。

羽田 昔より要求を下げざるを得なくなっている、昔の要求とは単純に比べられないが、若い人はもっと欲を出してもいいと思う。シニアはいろんな職場から入ってくるが、習熟度の個人差が大きい。大きく3つの業務があり、3つのうち1つの業務しかやらない人もいて同じ給料だと、バランスが悪い。

採決:「22 年末闘争方針」について

賛成14 反対0 保留0 議長1で可決

採決:「22 年末要求(JALI, JALEC, 日航労連統一、Jグル連)」について

賛成14 反対0 保留0 議長1で可決

会計細則の改定について提案 菊田書記長

休日活動保障の公休日活動について、これまでの支給実績を示して、年休日と同額に増額することを提案。今後の組合財政面については三和会計幹事が解説。手当増額と組合費減のシミュレーションで10年後までを示した。

北日本 提案には賛成。3交代の公休日に活動することの大変さを感じている。10年後の話を聞くと、いずれは JLU の解散の仕方も考えていく必要があると思った。

採決:「会計細則、支給基準の改定」について

賛成14 反対0 保留0 議長1で可決

閉会あいさつ 谷口副委員長

年末交渉は新しい組合組織となって初めての交渉となる。年末要求はもちろん、春闘に向けて続いていく。要求については本日の論議をもとに交渉していくことになる。また、要求アンケートへの取り組みに感謝しています。ありがたい要求になったので必ずいい一時金を取ってきます。年末闘争に向けて職場からのバックアップをお願いします。

2022 年末要求スト権投票開始

日程:10月14日~11月1日
投票用紙は10月28日までには発送してください。